

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

| | | | | |
|----------|---|---------------------|---------|------------------|
| 施策展開 | 5-(4)-ア | 国際社会、情報社会に対応した教育の推進 | 施策 | ② 情報社会に対応した教育の推進 |
| | | | 施策の小項目名 | — |
| 主な取組 | 未来のIT人材創出促進支援(ITジュニア育成事業) | | | |
| 対応する主な課題 | ③加速度的に進展する高度情報通信社会において、情報通信技術やITリテラシーは今後生きていく上で欠かせないツールとなっていくことから、情報教育の更なる充実や、教育の情報化を推進する必要がある。 | | | |

1 取組の概要 (Plan)

| 取組内容 | | 年度別計画 | | | | |
|--|--------------|---------------------------|----------------|------------------|----|----|
| | | H29 | H30 | R元 | R2 | R3 |
| 県内の小中学生に対する情報通信関連の教育を実施することにより、本県の将来の情報通信関連産業を担う人材を育成する。 | | 出前講座・企業訪問・親子ロボット教室等開催 40回 | → | 取組を実施する団体等への補助3件 | → | |
| | | IT体験教室等を通じた幅広いIT教育の機会提供 | | | | |
| 実施主体 | 県、民間 | | | | | |
| 担当部課【連絡先】 | 商工労働部情報産業振興課 | | 【098-866-2503】 | | | |

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

| 予算事業名 未来のIT人材創出促進事業 | | | | | | | R3年度 | | 令和2年度活動内容と令和3年度活動計画 | |
|---------------------|------|----------|----------|----------|---------|-----------|-------|------|---------------------|--|
| 主な財源 | 実施方法 | H28年度決算額 | H29年度決算額 | H30年度決算額 | R元年度決算額 | R2年度決算見込額 | 当初予算額 | 主な財源 | OR2年度： — | |
| 一括交付金(ソフト) | 委託 | 35,000 | 43,923 | — | — | — | — | | OR3年度： — | |

| 予算事業名 未来のIT人材創出事業 | | | | | | | R3年度 | | 令和2年度活動内容と令和3年度活動計画 | |
|-------------------|------|----------|----------|----------|---------|-----------|--------|------------|---|--|
| 主な財源 | 実施方法 | H28年度決算額 | H29年度決算額 | H30年度決算額 | R元年度決算額 | R2年度決算見込額 | 当初予算額 | 主な財源 | OR2年度： 未来の沖縄の産業界をITで支える人材を育成する様々な事業(7事業)に対して支援を行った。 | |
| 一括交付金(ソフト) | 補助 | — | — | 19,786 | 38,081 | 27,554 | 23,813 | 一括交付金(ソフト) | OR3年度： 未来の沖縄の産業界をITで支える人材を育成する様々な事業(7事業程度を想定)に対して支援を行う。 | |

様式1(主な取組)

| 活動指標名 | 出前講座・企業訪問・親子ロボット教室等開催 | | | | R2年度 | | | R2年度 決算見込 額合計 | 進捗状況 | 活動概要 |
|--|-----------------------|-------|-------|------|--------|---|-------------|---------------------|------|---|
| 実績値 | H28年度 | H29年度 | H30年度 | R元年度 | 実績値(A) | 計画値(B) | 達成割合 A/B | | | |
| | — | 62回 | 32回 | — | — | — | | 27,554 | 順調 | 児童生徒向けには、ロボットコンテスト (全国大会の沖縄予選)を実施する取り組み に支援を行った。 また、高校生向けに出前講座や企業訪問等 を行う取組に支援を行った。 |
| 活動指標名 | 取組を実施する団体等への補助 | | | | R2年度 | | | | | |
| 実績値 | — | — | — | 8件 | 7件 | 3件 | 100.0% | | | 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 本県の将来の情報通信産業を担う人材を育 成する取組への支援件数が、計画値を満した ため「順調」と判定した。 取組としては、ロボットコンテストを実施 することにより、小中学生等のITへの興味 を喚起した。 また、出前講座や企業訪問等を実施するこ とにより、高校生等のIT業界への関心を高 めた。 |
| 活動指標名 | — | | | | R2年度 | | | | | |
| 実績値 | — | — | — | — | — | — | | | | |
| 活動指標名 | — | | | | R2年度 | | | | | |
| 実績値 | — | — | — | — | — | — | | | | |
| (2)これまでの改善案の反映状況 | | | | | | | | | | |
| 令和2年度の取組改善案 | | | | | | 反映状況 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者には協賛金の獲得等を継続して働きかける。また、誘致した企業や業務で関係を持った企業に対して、未来のIT人材創造事業の取組を紹介し、その存在を認知してもらうことで、将来の出展または協賛が期待できる企業を増やす。 ・ 事業の企画提案公募の際に、将来の自走化、高度なスキルを伸ばす取組や離島での取組についても引き続き評価する。 | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 誘致した企業等に対し、未来のIT人材創造事業について周知を図った。 ・ 企画提案審査委員会において、将来の自走化や高度なスキルを伸ばす取組等を評価項目に加えた。 | | | | |



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・当該取組が業界において継続的な取組となるよう、多くの学校や民間企業等の参画を促す必要がある。
- ・将来的に県の支援がなくても取組が継続できる体制の構築を促す必要がある。

○外部環境の変化

- ・論理的な思考能力を養うため2020年からプログラミング教育が必修化されるなどIT技術者やプログラミング教育への関心が高まっている。
- ・今後、AIやIoT等の先端ITが他産業でも広く利用される一方で、それらを扱える人材の不足が予測されていることから、子供たちがITへの興味や関心を高めることを目指した取組が求められている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・IT人材育成の取組に関して拡大をはかる必要がある。
- ・当該事業における取組や成果について、積極的な周知をはかり、多くの学校や民間企業等の参画や協賛等を促す。
- ・各取組の自走化に向け、取組の収益化(協賛金の増加等)を図る手段の検討及び実施の必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・補助上限額を下げ、参画事業者数の増加を図る。
- ・教育庁と連携し、多くの児童生徒の参加を促す。
- ・自走化に向け、補助事業者に収益化に向けた取組の検討をさせるとともに、県内IT事業者等に対し、当該事業を紹介し、多くの企業の参画を促す。